

国立国会図書館所蔵の外邦図

鈴木純子（相模女子大・非）

はじめに

国立国会図書館が相当数の外邦図を所蔵していることは、所蔵地図目録の刊行等によって各方面に知られ、公開のコレクションということもあって、これまでも広く利用されてきたが、その内容については、同館の地図コレクション全般の紹介のなかで、ある程度の言及がなされている（鈴木 1996；小澤 2000, etc.）にとどまり、まとまった報告はなされていない。他の資料群と同じく外邦図も、一括して受け入れたものではなく、地図室設置（1961年10月）以来、この新設コレクションを充実させようとする担当者および関係者の強い意欲のもとで進められた、寄贈、購入など、多岐にわたる経路で集められたものが中心で、これに戦前の帝国図書館以来蓄積されてきた資料が加わっている。外邦図も含むコレクションの複雑な形成史を、完全にたどることは難しいが、わかるかぎりでの経過とコレクションの特色について、概要を報告する。

国立国会図書館の近代地図コレクション

外邦図に先立ち、国立国会図書館の近代地図コレクションについて、簡単に紹介する。国立国会図書館が創設されたのは1948年である。戦後に国の中央図書館として新たに設立されたものであるが、全体として、そのコレクションは戦前の帝国図書館のコレクションを引き継いでいる。

この国立国会図書館に地図室が設置されたのは、1961年10月、現在地（永田町）の第一期工事¹⁾が竣工し、赤坂離宮および上野からの移転が完了した時期である。1948年の国立国会図書館法制定以来、この法のもとに、納本、国際交換などによって蓄積されてきた一枚ものの地図、約25,000枚をコレクションの基礎とし、これらの地図の整理など準備期間を経て、1963年5月に地図専門の閲覧室 地図室 として公開され、現在に至っている。設置当初より、地図室の守備範囲は、明

治以後の一枚ものの地図の整理および提供となっており、現在はそれに住宅地図が加わっている。そのため、地図帳と近世以前の地図は、地図室の所管とはなっておらず、地図という観点からいえば少々使いづらい形になっている。当然のことながら、外邦図は近代に属するので、地図室が所管している。

所管資料は、継続的な納本、国際交換のほか、帝国図書館旧蔵資料（内交本²⁾など）、参議院資料の移管、関係各機関（国土地理院・海洋情報部・外務省・統計局・郵政省・東京地学協会・AMS など）や、各氏（渡辺文庫³⁾、浅井先生など）からの購入や寄贈、市中からの購入（国内未収図、外国地形図など）等により充実を重ねてきた。これらの中には多数の外邦図も含まれている（機関名は現在のもの）。

2003年3月末現在の所蔵地図は、一枚ものの地図442,742枚、住宅地図41,334冊である。

外邦図について

(1) 所蔵図の概要

収集経路については後述するが、地域別の所蔵数は表1のとおりである。所蔵図中には同一図が重複しているものもあり、所蔵の実枚数はこれよりかなり多いが、この表の数字はそれらの重複図をほぼ除外した面数である。所蔵図はいずれも印刷図で、コピー図は含んでいない。また、海図はここにカウントされていない。印刷図20,000面余りの所蔵は、国内最大級のものといえるだろう（表1）。

国立国会図書館の外邦図所蔵の範囲は、日本の旧統治地域を含む広義の外邦図作成地域全体にわたっているが、なお未収図も残っている。全体としては、東亜輿地図や樺太南部・千島・朝鮮半島・台湾・満州・ビルマ・インドネシア各島については比較的揃いがよく、未収部分は中国・インド・フィリピンなどで目につく。

明治期の略式測量からはじまり、昭和初期ごろまでに5万分1地形図を基本とする、ほぼ本土並みの地図

表 1 国立国会図書館地図室所蔵外邦図枚数⁴⁾
(海図・複製図・重複図等は除く)

地域		枚数
台湾		402
樺太		344
朝鮮		2936
滿州・関東州		4848
中国		3777
東南アジア	仏領インドシナ	200
	タイ	76
	ビルマ	1120
	インド・セイロン	719
	マレー	173
	フィリピン	225
	インドネシア	2386
太平洋	ミクロネシア	139
	メラネシア	263
	ポリネシア	10
	ハワイ諸島	60
その他	北方諸島・千島	203
	ソ連・モンゴル	212
	アラスカ地方	29
	オーストラリア・ニュージーラ	126
	ヨーロッパ	6
太平洋東亜小縮尺図		2118
	合計	20372

の体系でカバーされた、台湾、朝鮮半島、樺太南部、千島列島のシリーズの所蔵は、下記のとおりで、全般によく揃っているが、千島列島の5万分1地形図は択捉島以南を欠き、この部分については、全域の揃う陸海編合図で補わねばならない。

- 台湾 20 万分 1 複製図、同帝国図、5 万分 1 地形図、2.5 万分 1 地形図、2 万分 1 地形図(臨時台湾土地調査局)
- 朝鮮半島 20 万分 1 図、5 万分 1 略図、5 万分 1 地形図、2.5 万分 1 地形図(主要地域)、1 万分 1 地形図(主要都市)
- 樺太南部 20 万分 1 図、国境付近 5 万分 1 図、5 万分 1 地形図、2.5 万分 1 地形図
- 千島列島 20 万分 1 複製図、同帝国図、5 万分 1 地形図、5 万分 1 陸海編合図

海図は外邦図としてはカウントしていないが、国立国会図書館の海図のコレクションは、明治初期のものから、改版分も含めて、非常に充実している。帝国図書館旧蔵分約 2,600 枚、1965 年年頭ごろの寄贈約 3,400 枚(詳細不明)(国立国会図書館 1965.3)などで、外邦図と

の関連では、同じ 1965 年に海洋情報部(当時水路部)から寄贈された、「機密海図」290 枚(国立国会図書館 1965.7)が重要である。おおむね昭和 10~19 年ごろの刊行になり、秘、軍極秘、軍機の赤刷のある海図である。多くは北方水域、南方水域のもので、その島嶼部や港湾に関しては、水路部の測量によるこれらの海図が、はじめての実測図ということになるケースが多いと見られ、その点からも注目される。後述する外務省旧蔵図中にも相当数の海図が含まれていた。

近年収蔵した資料中に中国の都市図 59 面がある。大部分は参謀本部ないし軍令部の作成で、縮尺は 2,500 分 1 から 2 万 5 千分 1、うち 38 面は 1 万分 1 以上で、1 万分 1 が最も多い。同一都市に別図がある場合もあり、都市数は約 50 都市である。既存の図と合わせると、およそ 100 面(うち 16 面は欠図を含む南京 1 万分 1 シリーズ)となるが、都市数はほとんど変わらない。国立国会図書館には以前から、北支那方面軍司令部による『保管地圖目録』(昭和 19 年 10 月 1 日)の断簡「市街圖、近傍圖一覧表」⁵⁾があり、これには陸地測量部や軍令部による 1 万分 1 前後の中国の都市地図 250 種以上が記載されていて、広範な都市図または都市近傍図が作成、保管されていたことが確認できる。しかし、所蔵図と

表2 国立国会図書館所蔵外邦図刊行目録

『国立国会図書館所蔵地図目録』各号(海図を含む)

*収録地域名は目録の記載による

回次	部	収録地域	刊行年
1	台湾・朝鮮半島		1966
2	北海道・樺太南部・千島列島		1967
8	海図(上)		1976
9	海図(下)		1978
10	外国	世界・アジア(全)・中国(本土・満州)・モンゴリア・シベリア/北樺太	1982
11	外国	太平洋諸島・インドネシア・フィリピン・ベトナム・タイ・マラヤ・シンガポール・ビルマ	1983
12	外国	オーストラリア・インド・パキスタン・ネパール・スリランカ・中近東・アフリカ	1984
17	外国	中国 その2(5万分1地形図・衛星画像)	1991

この一覧表所収図のデータが完全に一致するものはあまり多くない。データ採取の観点の違い、増刷の過程での改訂、全く別種の地図であるなどの理由が考えられるが、いずれにせよ、相当数の都市図が作られたことは確かである。コレクションを完全にすることは困難かもしれないが、なお収集につとめる必要がある。

なお、外邦図の範疇ではないかもしれないが、帝国図書館以来のコレクション中には、朝鮮・台湾両総督府による両地域の5万分1地質図、台湾の油田、炭(煤)田地質図、合計約100面を所蔵している。貴重な地図資料として付記する。

(2) 目録

外邦図は全て整理され、地図室で提供されているが、整理の年代が古いため、目録の形態は、カード、または冊子体の『国立国会図書館所蔵地図目録』各巻(表2)等のみであり、書誌データの入力は今後の課題というのが現状である。また、この目録は、ほぼシリーズ地図のみを収録しており、単独刊行の都市図等は収録されていない。

朝鮮関係については、表2以外に『国立国会図書館所蔵朝鮮関係地図資料目録』(国立国会図書館専門資料部編 1993)がある。これは朝鮮関係のシリーズ地図について、表2の目録刊行後、約25年間分の増補・改訂を行っているほか、官・民の単独刊行図、地図室所管外の地図も含む、国立国会図書館所蔵の朝鮮関係地図資料全体の目録である。

なお、刊行目録の最も早いものとして、『中国本土地図目録 国立国会図書館及び東洋文庫所蔵資料』

(西村 庚編 極東書店 1967)があり、東洋文庫所蔵分を収録する(東洋文庫の一部は国立国会図書館支部東洋文庫となっている)のが特色であるが、中国本土に関してもその後の増加は著しい。表2の目録で増補されているが、その後の増加資料も多い。

カード、冊子とも目録には経緯度情報が入っていないが、地図室備付けの索引図(多くは手作業による、冊子体目録にも縮小版掲載)を併用することにより、所要の図に到達することができる。

(3) 収集経路

地図資料収集の経路が多岐にわたっていることは、既述のとおりである。外邦図も例外ではない。地図室発足当初のコレクションの現況や収集の過程については、すでに提示したのもも含めて、当時(1963~65年頃)の国会図書館の出版物『国立国会図書館月報』『びぶろす』にいくつかの短報が見られる。

1963年3月末現在の地図室所管地図(マップ)は和洋併せて25,000枚(副本共)(国立国会図書館 1963.7)、うち約20,000枚が和地図で、国土地理院、地質調査所、海洋情報部からの1948年以降の納本資料に、陸地測量部地形図旧版約3,700枚に及び「渡辺文庫」を加えたもの、約5,000枚の洋地図は、U.S. Army Map Serviceによる国際100万分1シリーズ、フランス、カナダ、ノルウェー、マラヤなどのものである。外邦図はここにはまだ含まれていない。

「地図室から 陸測版等東亜関係資料とその資料源」(国立国会図書館 1964.1)によれば、地図室はコレクションを充実させるため、上記の所管資料以外の資料群のうち、旧上野図書館から引継いだ「内交資料」、

「陸軍文庫旧蔵資料」⁶⁾の調査を行い、この中から「陸測版地形図」約 1,000 枚、「農商務省地質調査所官製地質図」約 200 枚、「海軍水路部版海図類」約 1,500 枚、「洋地図」約 300 枚を、地図室の所管資料に加えた。移管された「陸測版地形図」の中には、国内の旧版地形図だけでなく、100 万分 1 仮製東亜および東亜輿地図、朝鮮 5 万分 1 地形図、満州 50 万分 1 図、同 10 万分 1 図、同 5 万分 1 地形図、合計 587 枚が含まれていた。この報告はさらに続けて、「旧軍人等有志各位」からの寄贈によっても、「満鮮支等東亜関係地図資料」収集の可能性があると、100 万分 1 東亜輿地図、満州国治安部版満州 50 万分 1 図、同 10 万分 1 図、関東庁関東州 10 万分 1 図、同 2 万 5 千分 1 地形図、陸測版朝鮮 5 万分 1 地形図(以上合計 279 枚)等、この時点までの主要な寄贈資料枚数を記載している。これらを合わせた 900 枚弱が、現在の地図室が所管・提供している外邦図の基礎ということになり、前項でふれた機密海図等もほぼ同時期の収蔵にかかるものである。

コレクション形成のためのスタッフの努力はその後も続けられており、有志からの大小さまざまな寄贈は断続的にあったと思われるが、全てを追跡するのは困難である。

外邦図のコレクションは、1965 年から 66 年にかけて急増する。外務省および国土地理院からの納入による。今回確認できた限りで、1965 年 11 月から 66 年 6 月までの約半年間に、国土地理院から 876 枚、外務省から 5,398 枚の外邦図が納入されている。当時、大量の一枚もの地図の受入記録は、200 枚を限度として一括した枚数カウントで行われており、各グループの地域、図種別の明細は追跡しきれないが、これらは通常、同種の図が一括され、代表図名とともにその枚数が記されているところから、内容について一定の類推は可能で、その範囲は、太平洋周域航空図、東亜輿地図等の小縮尺図シリーズから、東アジア、東南アジア、オセアニア全般にまで、広く及んでいる。なお、この時外務省からは、水路図 1790 枚、国内の地形図 322 枚も納入されている。

その後のまとまった収集資料としては、戦前の参議院図書館が所蔵していた朝鮮、台湾地形図約 200 枚、東京地学協会からの寄贈(1981 年、満州 5 万分 1、10 万分 1 地形図など)約 5,000 枚をあげることができる。特筆

されるべき近年の寄贈資料は、浅井辰郎先生からのものである。2002 年 7 月から 2004 年 8 月までの間に、外邦図 1,052 枚、戦前の海図 664 枚(一部外国版海図を含む)、合計 1,716 枚が寄贈された。いずれも従来の所蔵図の欠図部分を補うことが確認された地図であり、コレクションの補強にとっての意義は大きい。

以上を合わせると約 13,000 枚余りである。1970 年代以降には、国内刊行の未収資料収集という形で、市中からの購入によるコレクションの充実も相当程度行われてきた。インドや、さきにふれた中国の都市図などは購入によっている。しかし、残る全てが購入による収集というわけでもない。膨大な図書館の受入資料の原簿から、地図資料、さらに、外邦図を拾い上げて検分する作業は容易ではなく、原簿による調査は受入の集中したおよそ半年前後の部分に限ってのみ行うことができた。その他の分も広く調査できれば、ほかにもある程度まとまった寄贈が見出せると思われる。特に、国土地理院からは、上記の 1,000 枚弱に止まらず、その後も何回か寄贈があったと見てよいだろう。今回の調査範囲をこえる時期の調査、戦後の混乱期のことで詳細がわからない陸軍文庫旧蔵資料の由来などは、今後、なお調査が必要である。

・ 地図一覧図および図式(凡例)

国会図書館のコレクション中には、大量とはいえないが、外邦図の一覧図も含まれている。外邦図の一覧図については長岡(1993)に詳しく、これらが地図作成の記録資料として重要な意味を持つものであるにもかかわらず、地図そのものと違って、保存の対象となりにくく、伝存の少ないことが指摘されている。この報告には国土地理院所蔵の外邦図一覧図の詳細なリストが付けられている。しかし、長岡(2004)によれば、そのうちの一部には、その後、所在が不明になってしまったものが出ているという。長岡の指摘のように、国立国会図書館でも、地図一覧図は正規の資料として扱われて来なかったが、収集資料とともに納入されたと思われる、冊子体および一枚もの一覧図が参考資料として保管されている。冊子体のまとまったものに限って、いくつか例示する。

「南方地区地図目録」(南方地区地図海図整備目録)
(参謀本部第6課 昭和17年5月調 秘、表紙には
図班とあり)

地図種別ごとの面数、言語、号数などの表(手書き)と
対応する索引図よりなる

インドネシア各縮尺、印度各縮尺の原語版一覧図
(折込)を含む

「支那地域兵要地図整備目録」(大本営陸軍部 昭和
19年6月調製 表・裏表紙とも27枚 軍事極秘)

長岡(2004)表1で、現在地理院で所在確認できず、
また、欠図(27枚中3枚?)ありとされているもの

「外邦図精度一覧表(満州国之物)」(製図課第5班
昭和8年6月調査 11図 秘)

本邦製外邦10万分1(甲・乙・丙・丁)、露版図(甲・乙・
丙)、支那製地図(甲・乙・丙・丁)それぞれ、索引図上
に区域表示、別紙2枚(第2・3)

「保管地図目録」(北支那方面軍司令部 昭和19年10
月1日)

これは、一覧図ではなく一覧表である。第1～12表中、
2～11表は脱落、表紙と表2枚のみの断簡、表紙とと
もに目次があり、民国製5万分1図、同10万分1図、
中南支假製10万分1図、10万分1空中写真測量要
図、兵要地誌図、航空図、南方図などよりなる。うち第
12表は、さきに中国の都市図の部分で述べた「市街
図及近傍図」リストで、おもに1:5000～1:10,000の市
街図、一部1:25,000、1:50,000などの近傍図を列記
する。

このほか、「支那方面十万分一圖一覽圖」「西部国境
線関係要図」等の一枚ものを含む各種の一覧図があり、
一枚ものにはコピー図も多い。コピー図は大多数国土
地理院所蔵のものによっている。

なお、1957・58年頃に、当時の地理調査所と防衛庁
防衛研究所が作成した外邦図の目録である『国外地図
目録』(目録4巻 一覧図4巻揃)(長岡 2004)1セットも
保有している。

図式については印刷図の所蔵はほとんどなく、大部
分がコピーで、その原図は国土地理院所蔵のものと考え
られるが、30種弱が数えられる。一覧図や凡例から
は、座標の原点、周辺図とのデータの調製方法などが
知られる場合もある。外邦図活用のための基礎資料と

して、一覧図、図式のいずれも、他機関所蔵のものも含
めて、所在の確認、リスト化が必要と思われる。

．今後の課題

本報告に関連しては、さきにもふれたとおり、収集の
経過について未解明の部分をできる限り減らすこと、実
態が必ずしも明らかでない陸軍文庫旧蔵資料につい
ての調査が課題である。陸軍文庫については参謀本
部文庫旧蔵資料との関連についても調査が必要と思
われる。資料集として一覧図、図式の所在目録をまとめ
ることも必要であろう。

あえて付け加えるなら、国立国会図書館の外邦図コ
レクション全体にとっての最大の課題は、『国立国会図
書館所蔵地図目録』未収録図も含む目録情報の入力、
検索システムの整備であるといえる。すでに整備されて
いる各機関の目録との統合的な検索が究極の到達点
というべきであろうが、前途の多難であることはもとより
承知の上である。

注

- 1) 現在の本館は第1期1961年竣工、第2期1978年竣
工の、2期にわたる工事で完成した。第1期工事の完
成とともに、赤坂離宮(現迎賓館)からの移転と、帝国
図書館旧蔵資料を含む支部上野図書館の資料の大部
分の移転が行われ、現在地での業務を開始した。なお、
1986年には、書庫の一部を除く新館(その後書庫も完
成)が落成した。
- 2) 内務省交付資料。検閲等の出版統制のため内務省
に納められた出版物が、用済み後、帝国図書館に交付
されていたもので、略して「内交本」と呼ばれていた。た
だし、交付されたのは図書の一部のみで、雑誌はほと
んど交付されなかったという。地図について言及された
ことはないが、外邦図がまとめて交付された形跡は
ない。
- 3) 渡辺泰三氏(1912-1959)旧蔵コレクション。迅速2万
分1図等、旧陸地測量部版地図約3,700面4,970枚。
1950年購入。同氏は、日本橋区役所、宮内庁、陸地測
量部/地理調査所を経て、早稲田大学図書館、地図、
地誌類の整理、編纂にあたったという。(国立国会図書

館 1963.7;同 1988, etc.)

- 4) 小澤知子氏(国立国会図書館収集部外国資料課主査)の資料提供による。
- 5) 本文 のリスト参照
- 6) 戦後の混乱期に、上野の帝国図書館(上野の図書館は、1947年12月までは帝国図書館、その後、国立図書館となり、1949年4月から国立国会図書館支部上野図書館となる。現在は国際子ども図書館)に、一部分が急遽搬入されたという。

文献

- 小澤知子 2000. 国立国会図書館地図室. 『地図情報』20(1): 4-6
- 国立国会図書館 1963.7. 国立国会図書館の地図室 付 渡辺文庫 『びぶろす』14(7): 12-15
- 同上 1964.1. 陸測版東亜関係資料とその資料源. 『国

立国会図書館月報』34: 21.

- 同上 1965.3. 海図資料着々整備される. 『国立国会図書館月報』48: 24-25
- 同上 1965.7. 旧海軍の機密海図について. 『国立国会図書館月報』52: 7
- 同上 1988. 『国立国会図書館百科』
- 鈴木純子 1995. 『地図資料概説 国立国会図書館所蔵資料を中心として』国立国会図書館
- 長岡正利 1993. 陸地測量部外邦図作成の記録 陸地測量部・参謀本部外邦図一覧図 『地図』31(4): 12-25
- 同上 2004. 外邦図作成に記録としての各種一覧図と、地理調査所における外邦図の扱い. 『外邦図研究ニュースレター』2: 17-23